



千八百七十九年八月十六日刊行「シヨクノヤル」新聞抄譯  
日本銀貨評

大藏省  
翻譯課

評





114  
A 3499



日本銀貨論

嚮ニ我輩ハ日本銀貨ノ得夫ヲ論述シタル所アリシガ又近ロ「  
 イナ、ノール新聞ニ一篇ノ論文ヲ見ル乃チ之ヲ抄出スルニ曰ク  
 果シテ日本銀貨ノ精量ヲシテ實ニ確信ヲ置クニ足ルモノト  
 ンバ南支那地方ニ於ケル外國人ノ意見ハ固ヨリ必ス皆之ヲ  
 以テ香港其他諸港ニ輸入流用スルヲ可トスルノ論ナルベシ  
 ト

我輩ハ素ヨリ日本貨幣ヲ十分ニ信憑スルヲ得ルトノ持論ニシ  
 テ他日若シ日本政府ガ窳ニ其公定ノ價位ヲ減殺スルガ如キ處  
 置アルニアラドレハ決シテ後來ニ至ルモ其信憑ヲ毀損スルノ  
 患アルニシテ惟其價位ヲ減殺セントナリバ即チ發見スル而已發  
 見ノ恐ハ以テ減殺ノ處置ヲ防クニ足ルモノ又該新聞記者ノ日

八二

和田信郎譯

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈



本貨幣ノ量目如何ヲ疑訝スル所アリ、雖、是却テ我輩ノ持論ヲシテ、云々堅固ナラシムルニ外ナラス、乃チ該記者ノ論スル所ヲ見ルニ左ノ如シ

云々然レ近ク香港市場ニ日本補助貨幣ヲ流溢シタルハ何ヲ以テ然ルヤ抑モ當初此等ノ美麗ナルニ拾錢十錢ノ小貨幣ノ輸入シタルヤ其量目極テ精確ナリシト、云々漸次尋テ輸入シ來タルニ、ニ至テハ聲價頗ニ地ニ墜テ終ニ二割ノ割引ニ非ズレバ流用セザルヲ得ズレニ至レリ、果シテ日本ノ小貨幣ニシテ此ノ如クナレバ亦馬ヅ其本位貨幣ニ於ケルモ幾分ノ低減ナキヲ保タザランヤ蓋シ此ノ如キ小貨幣ノ量目ノ變易ニ於ケルハ其事瑣小而已、云々是ヨリシテ人心ノ日本造幣ニ疑念ヲ披ム亦交シテ鮮少ニアラザル也ト

談記者ノ見ル所此ノ如シト、云々雖モ輒近日本造幣局鑄造ノ小貨幣

ノ決シテ其量目ヲ減殺シタルヲナシ其量目ヲ變更シタルヤ則チ公衆ヲ利スル所以ニシテ造幣局ヲ利スル所以ニ非ス、請フ者ヨ補助貨幣ノ精量ハモト一千分ノ八百ニテ公差千分ノ二トシ而シテ其造幣ノ緻密ニシテ精量ヲ誤ラザル前後一ノ如クシテ乃チ造幣初年間ニ鑄造シタル貨幣分析書ニ平均ノ本位ハ七九、四三ナルヲ指示シ、造幣局長ノ千八百七十八年六月幣造局創業以來第ニ終ル年報書中「コーランド、エフ、シ、エス、氏ノ補助貨幣分析ノ報告ニ五十錢ハ七九、九六、二十錢ハ八〇、〇六十錢ハ八〇、〇一、五錢ハ七九、九〇ナルヲ指示シタルヲ而シテ又嘗テ外國公使ヨリ寄贈シタルモノヲ千八百七十七年十月米國造幣局ニ於テ分析シタル所ヲ視ルニ二十錢ハ八〇、二〇十錢ハ八〇、〇五、ハ八〇、〇五トス、是レ實ニ大阪造幣局ノ分析シタル所ヨリ却テ多量ノ精分ヲ含有シタルニ非ス



右ノ如キ事實アルニ因リ香港等ニ於テ日本貨幣ノ低減ヲ喋々  
 スルハ、非ナリ惟該局創業初年ノ後、至リ補助貨幣鑄造ノ制  
 ヲ変更シタルヤ其精分ノ量目ヲ改正シタルニアラスシテ其全  
 量ト大サトテ變シタル而已乃チ今其旧新ノ量目ヲ茲ニ掲ケン  
 五拾錢 一九三、〇「グレイン」ヲ二〇八、〇〇「グレイン」ニ改ム  
 二拾錢 七二、二〇「」ヲ 八三、二〇「」ニ改ム  
 十錢 三八、六〇「」ヲ 四一、六〇「」ニ改ム  
 五錢 一九、三〇「」ヲ 二〇、八〇「」ニ改ム

又此等小貨幣ノ金徑ヲ短縮セル「一」インチノ凡百分ノ三ニシ  
 テ貨幣面ノ模様モ亦変更セラレタリ曩ニ「マシヨル、キンドル」氏  
 ノ第一回年報ニ「算本位」トシテ金ヲ採用スルニ當リ此ノ如キ變  
 更ナル可ラザル「」ヲ摘説シ併テ一般公衆ノ為ニ補助貨幣ノ  
 量目ヲ改正セシ「」ヲ進言セリ蓋シ支那地方ニ於テ小貨幣ノ需

要スル「」多手ニシテ且ツ熾ニナリシト虽モ日本政府ノ之ヲ鑄  
 造セラル「」モ亦夥シキニ由リ一時政府ハ九二割引ニテ好テ其所  
 藏ヲ賣出「」ルニ至レリ畢ニ香港地方ニ於テ此等小貨幣ノ供  
 給以テ需要ニ充ツルニ足テ流通ノ用ニ餘リ地金ノ價ヨリ貴カ  
 ラザル「」因テ自然割引ヲ生マザルヲ得ザルニ至レリ是亦怪ム  
 ニ足ラザル也

今茲ニ日本造幣創業以來千八百七十八年六月三十日迄日本造  
 幣局鑄造ノ補助貨幣ノ總額ヲ掲載スルハ敢テ無用ニ非ラザル  
 ヲ以テ代筆之ヲ記シテ讀者ノ參觀ニ供セン即チ五十錢四百九  
 万千六百七拾三圓、二十錢六百二十五万八千三百七十四圓、十錢  
 六百二十四万七千七百九十圓、五錢二百三十七万七千六百三圓  
 ニシテ計是千八百九十六万九千四百四十九圓ナリ此内二百  
 五十万圓餘ハ該局創業初年ノ鑄造ニ係ル而シテ此初年鑄造ノ



貨幣ノ價格ヲ以テ後年鑄造ノモノニ比スレバ初年鑄造ノ貨幣  
ハ其價低減セルモノトイフ、新聞ハ先年鑄造ノ  
貨幣ヲ以テ大ニ價值ヲ有セルモノト臆測シ、鑄造ニ係ル  
モノニ至テハ其量目減殺シ為メニ幾分ノ實價ヲ失ヘリト、昔  
ヲ共々論スルハ、慙笑ノ至チラスヤ我輩カ茲ニ論述シタル所ヲ  
見レハ、訝シテ其然ラザルコトヲ知ルベシ蓋シ日本政府ノ既往ノ  
處置ニ向テ嘗テ輿論ノ之ヲ非トシタルヲ聞カザル而已チラス  
也、記者ノ云ヘル如ク、人攀テ香港其他支那諸港ニ日本銀  
貨ノ輸入スルヲ可トスルニ至ルモ其低減ノ實チキカ故ナリ之  
ニ依リ我輩竊ニ望ム、後來該政府ノ信憑ヲシテ愈々擴充セシメ  
ンコトヲ  
思フニ支那人ノ日本貨幣ヲ信憑スルヤ否ヤノ議論ハ世上喋々  
論スルモノトイフ、魚尾左マデ論究ヲ要スヘキモノニ非ス、假令

若シ又那人ノ之ヲ拒ムコトアルニ若シ之ヲ拒マザラシメシム  
スルハ何ノ難事カアラン我輩久シク之ヲ怪ム、彼ノ支那人カ  
香港ニ於テ實施スル所ノ此貨幣ヲ劉削ス、コト嘗テ外人ノ問  
フモノナク止、未ダ協議戮力シテ之カ停防ノ策ヲ立ルコトナ  
サ、ルヨ蓋シ貨幣ノ削ノ處置ニ至テハ野蠻未開ノ遺弊ト云フ  
今此ノ如キ惡漢ノ兇暴ヲシテ愈々新造美麗ノ日本銀貨ニ逞フ  
ヤシムレニ於テハ亦漸乎之ヲ防止スルノ理由アルハ明ナリ元  
來支那ハ他邦ニ比スレハ事物ノ改良或ハ変更ヲナスヲ難シト  
スト、虫鼠之カ為ニ久深ノ汚俗ヲ洗除スルニ逡巡スルハ外人ノ  
取ラザル所ナリ況ンヤ利得上ノコトヲ支那人ノ常ニ其技ニ  
鈍ナラシムルニ於テヤ、今若シ「チヤイ」ニ新造ノ報知セル  
如ク廣東ノ官府ニ於テ尚ホ未ダ拒テ日本貨幣ノ流用ヲ承認セ



ストノナレバ其役員等ハ千八百七十四年尔来変心シタルニ  
アラザレテ得ス如何トナレバ我輩ハ昔該官府ヨリシテ公然  
日本貨幣ノ流用ヲ承諾シタルヲ  
本政府ハ到底洋銀ト并等ノ價ニテ内外貿易上ニ其銀口ヲ流用  
セシムルニ至ルノ効功ヲ奏スベシト雖氏惟政府歳入ノ増加ヲ  
是レ圖リ洋銀ノ公然ト法貨ニ承認セラレタルノ地方ニ銀貨ヲ  
輸入流用セシメントスルカ如キ處置ヲ施スト雖氏今茲ニ着手  
セシレ前外先ツ外國人ノ間ニ承認流用セシムルヲ以テ却テ其利  
益ノ觀易クシテ得策タルヲヲ思考スヘシ如何トナレハ其地方  
ニ未ダ銀貨一般ニ流用セザル間カ若クハ地金ノ價ヲ以テス  
ルニ非アル外輸出スルヲ不爾留トスル間ニ到底此ノ如キ貨幣  
ハ香港ニ於テ割引ニ非ザレバ賣却スルヲ得ヌ又ハ國庫ニ幾分  
ノ損大ヲ與ヘザレバ非ザレバ賣却スルヲ得サルベシ蓋シ銀行

八六

其他諸商ノ取リニ於テ洋銀等シク日本銀貨ヲ用テ聊カ損  
失ナキコトヲ皆承認スルニ至ラザル間ハ銀貨ヲ流用セシメント  
スルモ到底各自ノ満足ヲ求ルハス又實ニ多少ノ損耗ナキヲ  
得サルカ故ニ日本銀貨ヲ以テ支那印度地方ニ一般流通シ  
メント安ヤハ先第一著歩ニ之ヲ香港ニ承認流用セシムルヲ  
最ニ切トス又能クスルニ支那各港ニ流出セシム可シ如何  
トナレバ香港外ノ諸港ニ至テハ先進シテ之ヲ流用スルノ地ニ  
アラス進香港ニ倣テ漸ク流用スルニ至レバ也追口ダベンホル  
トキノ上海領事報告ニ曰ク支那政府ハ断然支那ニ造幣所設立  
ノ議ヲ拒絶スト云々支那人諸商ヨリシテ之ヲ見レハ實ニ便且  
ツ信スルニ足ルノ貨幣苟モ之レバカラス是レ支那各港  
ニ於テ洋銀ヲ流用スルニ至レル所以也トヨク此ノ如クナ  
レハ縦ニ支那太子「カンカ其臣民ノ為ニ通貨タルモノヲ鑄造供



給スルヲ欲セスト虽氏恰モ好シ其通貨タルモノハ遂ニ日本銀  
圓ニ歸スルニ到ルハ我輩期シテ之ヲ待ツ



